



# 担い手通信



JA bank Mic

Topic

今月の話題

## わな・柵カメラが監視→メールで伝達→まとめて捕獲 防げ鳥獣害 ICT駆使 対策実施312市町村計画163

農水省調査

**箱** わなの遠隔監視や遠隔閉扉など、情報通信技術（ICT）を駆使した鳥獣害対策に42道府県312市町村が取り組んでいることが、農水省の調査で分かりました。ICT対策の調査は初の試みです。わなを見回る時間を省けたり、ある獣種をまとめて捕獲したりと効率化ができるため、普及が進んでいます。163市町村が今後実施する計画で、農水省は、ICT活用がさらに広がるとしています。

鳥獣害被害防止計画を策定している市町村は1458（2017年4月）。そのうちICTを鳥獣害対策に活用している自治体を調べました。

道府県別に見ると、最も

ICT対策をする市町村が多いのは北海道で16。道農政部技術普及課によると、被害額42億5000万円（15年）と獣種中で最大のエゾシカ対策に、誘導柵わなをカメラで監視し、鹿が入ったら遠隔操

作で柵を閉めるシステムが導入されているといっています。

北海道に続く三重県では、15市町村が導入。県農業研究所などが開発した捕獲装置「クラウドまるみえホカクン」が普及しています。おりに獣が入ったらメールで知らせ、遠隔操作で閉め、捕獲します。カメラで映像も見られ、猿の群れをまとめて捕獲するのに使われています。三重県の猿被害額は6500万円（15年）で全国第3位となっています。

西日本を中心にICT対策を進めるところが多くありました。わな内のセンサーで頭数や獣種を判別して捕獲したり、獣の位置を地図上に可視化したりする技術も、導入や開発が進んでいます。

調査では今後取り組みたい自治体も調べ、農水省は「さらに増えるのは確実。見回り作業を省力化でき、高齢化で対策を取りにくかった地域でも活用が見込める」（農村環境課）とみています。被害軽減に向け、引き続きわなや侵入防止柵の整備を推進するとしています。

### 鳥被害のICT対策をしている市町村数

北海道	16	滋賀	11
青森	2	京都	10
岩手	4	兵庫	11
宮城	6	奈良	12
山形	9	和歌山	12
福島	10	鳥取	2
茨城	2	島根	7
栃木	5	岡山	5
群馬	3	広島	9
千葉	11	山口	2
神奈川	2	徳島	7
新潟	4	香川	12
富山	8	愛媛	7
石川	7	高知	8
福井	12	福岡	9
山梨	5	佐賀	5
長野	10	長崎	9
岐阜	7	熊本	8
静岡	1	大分	10
愛知	7	宮崎	6
三重	15	鹿児島	4
<b>合計</b>		<b>312</b>	

※未記載都府県はゼロ

### 数字でみえる 三重県の農と食

# 5428

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

### 農業生産関連事業に取り組む 農業経営体の数

農産物の加工や観光農園、直売所などを利用した消費者への直接販売といった、農業生産に関連する事業を行った三重県の農業経営体の数は、2015年で5428経営体（2015年農林業センサス）。県の農業経営体に占める割合は21%です。事業種別でみると「消費者に直接販売」が90%と、非常に高い割合を占めています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

# 大豆の害虫ミナミアオカメムシが 越冬可能な地域を予測するシステムを開発

## 三重県農業研究所は、ミナミアオカメムシの越冬可能地域を

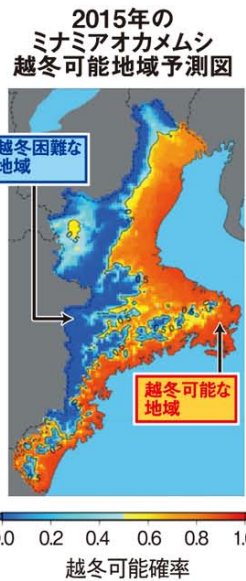
予測するシステムを開発しました。このシステムは越冬可能地域予測モデルをもとに1キロメッシュごとの越冬可能確率を算出して予測図を作成します。大豆の害虫であるミナミアオカメムシは温暖化とともに分布拡大していると考えられており、県内での

生息範囲の実態解明が求められていました。同システムは国立開発研究法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発したメッシュ農業気象データシステムから

得られる1キロメッシュの気象データをもとに作成しており、予測を行いたい地点を含む1キロメッシュの越冬可能確率を算出します。また、予測図作成プログラムを

利用することで越冬可能地域を予測図として可視化できます。この予測システムの予測結果を2015年のミナミアオカメムシ越冬世代の分布調査結果と

比較して検証した結果、約7割の正答率でした。このシステムの活用にあたっては、メッシュ農業気象データシステムの利用者登録が必要です。



お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 ☎0598-42-6360

## JA鈴鹿

### 全農式養液栽培「ういずOne」試験導入後 初の収穫

JA鈴鹿が試験導入した、JA全農式トロ箱養液栽培システム「ういずOne」で栽培したミニトマトとキュウリの収穫がピークを迎えている。JAは農家の省力化だけでなく、未使用期間の育苗ハウスの有効活用で、農業者の所得増大につなげるのが狙い。収穫は11月中旬までの見込み。JA営農指導課の大井弘人課長は「試験栽培での収支結果を検討する。安定した運用が可能であれば、育苗ハウスの運用拡大や所得向上に向けて農家へ提案したい」と話した。(2017/10/19 ワイド2東海)

## JA津安芸

### 栗集荷盛ん 大粒、前年上回る出荷量 500<sup>kg</sup>見込む

津市にあるJA津安芸の片田店集荷場で、栗の集荷がピークを迎えている。2017年産は病害虫の発生も少なく大粒傾向。同集荷場では10月上旬までに、3回集荷した。今年は前年より300<sup>kg</sup>多い、500<sup>kg</sup>の出荷を見込んでいる。同市片田地区の生産者21人は、各自で選別して選果場に持ち込んだ。JA津中央営農センターの職員が虫食いや傷の有無を一つ一つ確認しながら選果、箱詰めして県内市場に出荷する。生産者は「今年は実のなる時期に台風が少なく、大粒で良い出来だ」と話した。(2017/10/13 ワイド2東海)

## JA三重中央

### マコモタケたっぷりシューマイデビュー 生産活性化へ開発

JA三重中央は10月15日、津市美杉地区で収穫したマコモタケを使った「手作りまこも入り野菜シューマイ」の販売を始めた。耕作放棄地対策として、8年前から栽培が始まった。以来、生産量を増やし、現在は7人が約90<sup>ha</sup>で栽培する。加工品の販売は生産の活性化へ、生産者有志の「八十六石まこもの集い」と、JAのカット野菜工場「ベジマルファクトリー」が協力し、試作を重ねた。まこもの集い代表の横川惣吾さんは「JAとともに、何回も試作をしたものがようやく形となった。これを機に、知名度向上につながれば」と期待を話す。(2017/10/17 ワイド2東海)

## 農業経営資金

農業を営むすべての方に

## 農機ハウスローン

農機具や軽トラックを急いで買い換えたい方に

## スーパーS資金

短期の運転資金が必要になった方に

## JA新規就農応援資金

農業を始める方や始めたばかりの方をバックアップ

## JA持続的農業応援資金

ベテラン農業者の方をバックアップ

## JA飼料用米等対応資金

飼料用米等の生産拡大に取り組む方に

## 農業近代化資金

認定農業者の方や一定の条件を満たす農業者の方に



農業近代化資金については、利子補給・利子助成内容がJAにより異なる場合があります。詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。  
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成29年10月現在

## 《金利情報》 平成29年10月現在

### 農業経営資金

変動金利  
年**1.00%**

固定金利  
年**1.50~2.00%**

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

### スーパーS資金

年**1.5%**  
(変動金利)

明日の農業を担うみなさまへ  
JAバンクは地域農業を応援します!

JAバンク利子補給制度のご案内

**最大年1% 利子補給**

JAバンクでは、農業者のみなさまに対して、借入負担の一部を軽減することにより、農業経営の安定化・効率化を支援します。